

ホームページ、SNS でも情報発信しています

- ホームページ「あまがさ 川崎市」で検索
http://www.e-amagasa.net
- Facebook「雨笠裕治」で検索
- Twitter「@amagasayuji」で検索
- メールでご意見もお寄せください。amagasa-@khaki.plala.or.jp

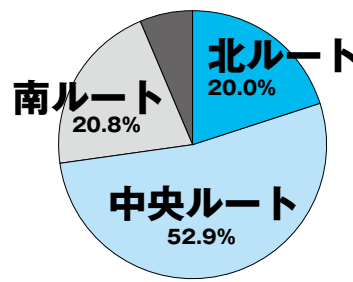


約束・実現の 行・動・宣・言

区民アンケート調査結果中間報告

9月から麻生区内全域で独自調査を実施しました

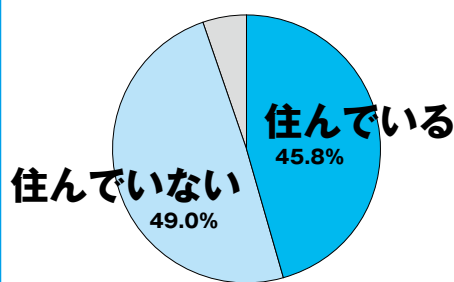
「設問2」ルート確定には今後も様々な調査検討が必要です。現時点での路線決定条件等の情報から、麻生区内のルートを下記の3ルートと想定してみました。自宅から近く、便が良くなるからという視点のみではなく、沿線の開発（再開発、乗降客の安定的な確保など）、麻生区のこれからの発展という視点に立ったとき、どの路線が良いと考えますか？



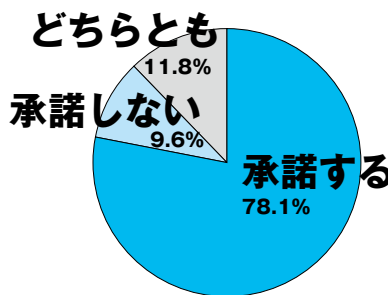
（9月のアンケートでは「中央ルート」を「最短ルート」と表記しましたが表現を改めます）

「中央ルート」は途中、白山のグリーンタウンを通り、最短で結びます。ほとんどが住宅地の中を通過するので、権利関係の調整が問題に

なる可能性も残ります。「北ルート」はこれまでの川崎市縦貫高速鉄道でも想定されていた駅位置を通るものです。「南ルート」は早野から新大谷は居住者が少ないエリアを通り、新大谷から真福寺を経由し新百合ヶ丘へは「10メートル以上の道路幅を持つ公道の、深度は地下10メートルより深い部分を通過する」という路線決定の基本に適合するというメリットがあります。ルートを選択した理由を、記述回答でたくさんいただいています。次回の報告でお知らせします。



「設問5」あなたは3ルートの範囲にお住まいですか？想定3ルート内だけでなく、麻生区全域から多くの回答をいただき、皆さんの関心の高さを実感しています。



「設問5の1」(設問5で「住んでいる」と答えた方にうかがいます)調査に基づき、十分な騒音振動対策が施されれば、「ご自分の敷地の下を通過することをどう思いますか。」

自分の敷地の下を通過することについて聞いていますが、推進に「反対」(全体の5.6%)の方の半数は、自分の敷地の下を通過することを「承諾しない」(全体の2.6%)と回答しています。敷地内の下を通過することを承諾しない方がいるということは、ルート決定を進める上で、十分に配慮する必要がある点だと考えます。

市営地下鉄3号線延伸計画の概要

横浜市の取組について、横浜市都市整備局に直接確認しました。「横浜市における鉄道を軸とした交通体系」をまとめ、2014年2月17日に公表しました。その概要を整理すると、

- 1 路線の役割
- 広域的な鉄道ネットワークの形成
- 横浜と川崎北部・多摩地区を結ぶ新たな都市軸が形成される
- 新幹線へのアクセス機能の強化
- 川崎市北部・多摩地区などの広い範囲から新横浜駅へのアクセス機能が強化される

新百合ヶ丘駅発の所要時間の短縮

	現行(乗換あり)	開通後(乗換なし)
あざみ野	約30分	約10分
新横浜	約40分	約25分
横浜	約50分	約40分

2 路線の効果
新横浜へ大幅な時間短縮で新幹線へのアクセスが格段に改善。あざみ野・新百合ヶ丘間が、横浜線・南武線を経

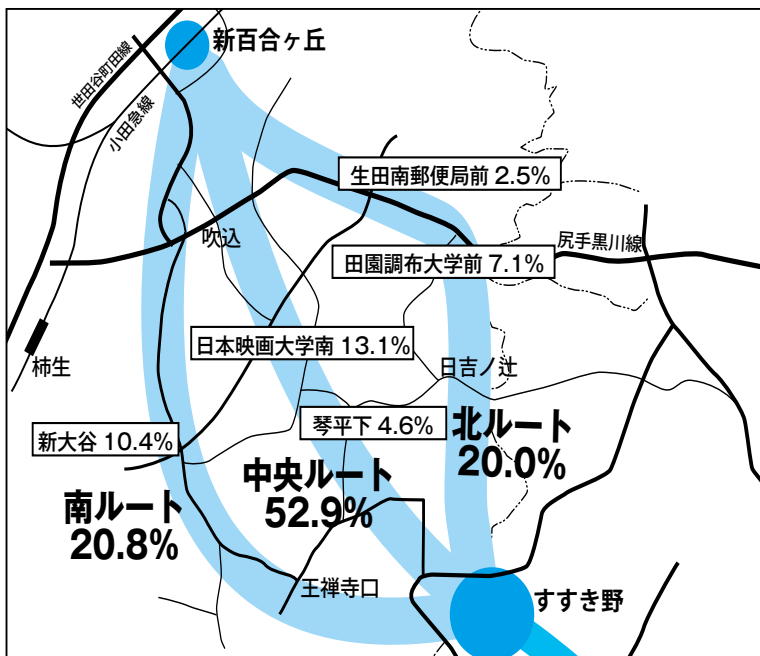
由せず、直接移動することができ、事故、災害時の代替経路の拡充。
3 路線の事業性
市営地下鉄3号線のあざみ野〜新百合ヶ丘への延伸需要規模は45〜53千人/日(輸送密度)。現在の相鉄いずみ野線と同規模です。概算事業費はおおむね1300〜1500億円、累積資金収支は23〜31年目で黒字転換すると試算。広域的な交通利便性の向上が期待される路線であり、かつ事業としての採算性が比較的高いことから、優先度の高い路線とする。また、沿線バスネットワークと合わせた利便性の高い交通体系を構築するとともに、鉄道整備と合わせた駅周辺のまちづくりを検討すると考えています。

途中駅を想定し、利便性、経済効果を検証する実現可能調査を

「設問4」選択したルート上に駅をもう1か所駅を建設する可能性が有ります。どのような場所を想定されますか？
設問4の「途中駅をどこに想定するか」ということが、設問2のルート選択の判断になったと考えられます。

選択項目	総計		北ルート		中央ルート		南ルート	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
日本映画大学南	68	13.1%	1	1.0%	65	23.6%	2	1.9%
琴平下	24	4.6%	0	0.0%	23	8.4%	1	0.9%
新大谷	54	10.4%	0	0.0%	0	0.0%	54	50.0%
生田南郵便局前	13	2.5%	13	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
田園調布大学前	37	7.1%	33	31.7%	3	1.1%	1	0.9%

※各ルートの構成比は各ルートの選択者総数との割合



調査の概要
調査方法: アンケートを掲載した麻生通信(平成26年第3号)を、麻生区内に5万4千枚を個別ポスティングで配布。郵送とFAXで返信。
調査時期: 平成26年9月~
有効回答: 520通(平成26年11月20日まで)

【お願い】
1人でも多くの方の意見をうかがいたいと考え、調査を継続しています。まだ回答をしていないという方には調査票をお送りしますので、住所、氏名をFAX、メールなどでお知らせください。